

メキシコ大統領家族守った外交官



プレートの除幕式に臨んだメキシコのバルボサ上院議長（左）と孫娘の堀口すみれ子さん=東京都千代田区のメキシコ大使館

クマイチさん、あなたの勇気は外交官の模範です……。メキシコで1世紀前、クーデターで迫られた大統領の家族を公使館でかくまつた堀口九萬一氏をたたえるプレートが10日、在日メキシコ大使館（東京都千代田区）で披露された。

堀口氏は明治・大正期の外交官。メキシコのほか、スペイン、ブラジルなどで公使を務めた。長男は、詩人の堀口大学だ。

堀口氏がメキシコ臨時代理公使を務めた1913年、同国の大デロ大統領はクーデターで殺害された。

当時、身の危険を感じた大統領夫人

人ら親族20人あまりは、親交があつた堀口氏に助けを求めた。公使館が攻撃される危険もあったが、堀口氏は事態が収まるまで彼らを保護した。クーデターの指導者に対しても、「窮鳥懷に入れば猶師も殺さず」とのことわざを引き、「危急の場合に公使館に逃げてきたなら、いかなるメキシコ国民でも皆保護する」と人道的対応を説いたという。

堀口氏の孫で詩人の堀口すみれ子さん（70）＝神奈川県葉山町在住＝は父・大学から思い出を聞かれて育つた。公使館の玄関に日の丸を敷き、「ここは日本だ。彼らを捕らえるというなら国旗を踏んで館内に入るがいい」と一喝し、追つ手を阻んだとの逸話だ。

式典であいさつしたすみれ子さんは「歴史の大海上から祖父の勇気ある行動をすくい上げ、忘れずにいてくださいたメキシコに感謝します」。

今回披露されたプレートと同じものが、今年4月、メキシコ上院にも飾られた。

（石田博士）

堀口九萬一氏へ1世紀越しの感謝

堀口九萬一

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

この記事には**複数の問題があります**。改善 (<https://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=%E5%A0%80%E5%8F%A3%E4%B9%9D%E8%90%AC%E4%B8%80&action=edit>)やノートページでの議論にご協力ください。



- **出典**がまったく示されていないか不十分です。内容に関する文献や情報源が必要です。 (2015年5月)
- **独自研究**が含まれているおそれがあります。 (2015年5月)

堀口 九萬一 (ほりぐち くまいち、1865年2月23日（元治2年1月28日） - 1945年（昭和20年）10月30日) は日本の外交官、漢詩人、隨筆家。号は長城。詩人堀口大學の父として知られる。



堀口九萬一

来歴・人物

越後長岡藩の足軽の子として生まれる。彼が3歳の時、戊辰戦争で父は戦死。長岡藩が賊軍の汚名を着せられる中、母子家庭で苦学して育つ。

秀才として知られ、18歳のとき地元長岡の学校で校長となる。上京後、東京帝国大学法学部に最優秀の成績で入学。大学在学中、1892年に息子が誕生。後の詩人堀口大學である。

1894年、日本初の外交官及領事官試験に合格。外務省領事官補として朝鮮の仁川に赴任中、1895年、閔妃暗殺に際して、朝鮮の大院君に日本側から決起を促した廉で停職処分を受ける。1年後、1896年に復職するも、外交官としては陽の当たらない道を進むことを余儀なくされた。

臨時代理公使としてメキシコに赴任中、1913年、メキシコで軍事クーデターに遭遇。フランシスコ・マデロ大統領が殺害された際には、身を挺して未亡人と子供たちを保護。さらに日本の武士道を説いて、大統領妻子に危害を加えぬことを革命軍に保証させ、サムライ外交官と謳われた。

他にオランダ、ベルギー、スウェーデン、スペイン、ブラジル、ルーマニアに赴任。最初の夫人と死別（1895年）した後、ベルギーで白人女性と再婚した。次男はスウェーデン在勤中に生まれたので、地名にちなみ「瑞典」と名づけられた。堀口瑞典は同盟通信社記者として、大戦中はチューリッヒ特派員であった。戦後は産経新聞に在職した。

当初は長男大學も官界に進ませるつもりだったが、病弱な大學が文学に志を持っていることを知ると、彼を自分の任地に呼び寄せ、息子が30歳になる頃まで養って文学修業を助けた。

1925年、ルーマニアを最後に依願免官、以後、講演、隨筆などで活動する。1927年、オランダの作家エレン・フォレスト (Ellen Forest) の、日本を舞台とした小説『雪さん』を『女性』に翻訳連載。隨筆集は、親しかった長谷川巳之助が興した第一書房から刊行された。

太平洋戦争（大東亜戦争）中には「アングロサクソンの残酷性」「今度は米国は負ける」など戦意高揚の文章を書いている。敗戦直後の1945年10月に死去。

著作

- 游心録、第一書房、1930
- 南米及び西班牙 平凡社、1933
- 外交と文藝 第一書房、1934
- 世界と外交 第一書房、1936
- 世界と世界人 第一書房、1936
- 世界の思ひ出 第一書房、1942
- 長城詩抄 堀口大學訳 大門出版、1975

参考文献

出典は列挙するだけでなく、脚注などを用いてどの記述の情報源であるかを明示していく



ださい。記事の信頼性向上にご協力をお願いいたします。 (2015年5月)

- 工藤美代子 『黄昏の詩人 堀口大學とその父のこと』 (マガジンハウス、2001年)
- 柏倉康夫 『敗れし国の中のはて 評伝堀口九萬一』 (左右社、2008年)

「<http://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=堀口九萬一&oldid=55414286>」から取得

カテゴリ: 戦前日本の外交官 | 日本の随筆家 | 東京大学出身の人物 | 新潟県出身の人物 | 1865年生 | 1945年没

-
- 最終更新 2015年5月2日 (土) 23:52 (日時は個人設定で未設定ならばUTC)。
 - テキストはクリエイティブ・コモンズ 表示-継承ライセンスの下で利用可能です。追加の条件が適用される場合があります。詳細は利用規約を参照してください。

附屬書類卷八

卷之三

大正十四年八月八日

外務省放恤審査會長殿

對獨戰半被害者枚也二關入川件

通鑑卷之三

東京府

右者旨法律第三十九號及勅令第百三十三號二據り
放恤申請書提出候行意見書相添此段進達候
也

第一、申請書記述根據ヲ有アルモノト認ム
第二、申請書記載、損害額ハ穢當ナリト認ム

意見書

外務省放血審査會長殿
對敵戰爭被害者放血=開スル件
本籍新津縣長岡市船越町所二十番地
現住地新潟市西区卯ノ井町舟井旅館望翠樓
通信處八場所右合
同様命令書公使
據口九萬
嘉慶元年一月廿日生
東京府

右者ヨリ法律第三十九號及勅令第百三十三號ニ依リ
放血申請書提出候行意見書相添此段進達候
也

意見書

第一 申請書記述根據已有モト認ム
第二 申請書記載損害額、穢當ナリト認ム

放 息
放息

損害申請書（財産／損害）

第二號用紙



審査番号
440

考		備		害		損		申	
項	其他参考トナルヘキ事 件ノ目録	本申請書ニ掲タル事項 ヲ説明スルニ足ルヘキ 證據方法ノ開示及添付 セル證據書類及證據物 件ノ目録	本申請書ニ依ル申告 外務省令第三號ニ依ル 申告書ニ添付シタル證 據書類及證據物件ノ目 録	損害總額及 其算出ノ基 礎	保險金及其 他ノ補償金 受領ノ有無 及其金額	損害發生ノ 事由及其前 後ノ事情	損害程度	被 害者 被 害者 本籍地全 上 現住地全 上 申請者ト被害者トノ關係 職業公使 同人	申 請 者 本籍地全 上 現住地全 上 申請者ト被害者トノ關係 職業公使 同人
				金五百円也 算出ノ基礎別紙(追)	無し	大正四年十月西班牙國大使館時代理公使トコラ在助 中本邦在花崗山光天會時官員省圖書集勤務 被公使館書記生内山若木良三氏送之今書記 人自已前年六月白雲庵迄ノ事 次年元月地牛海於船頭人限也之福 沈也うちも萬右物貰ハ慈り難失シタル 相山房不都ハ本件被空(眞間)ノ御初人其 他當時秋山房大ニ送りテ該款物而贈與 萬もセヨ而ナラ登見し得バ後日文ツ提山スレ 無し	大正四年十二月二十一日 地牛海	大正四年十二月二十一日 全 上年 全上月 全上 日生 全 上年 全上月 全上 日生 全 上年 全上月 全上 日生 全 上年 全上月 全上 日生	

右申請候也
大正十四年七月三十日 申請者

九萬一
塙

外務大臣男爵幣原喜重郎殿

外務省報 第百四十六號 (昭和三年一月一日)

二十

職員動靜

横山洋(外交官補) 十二月十五日羅馬尼亞國ニ著任
 萩本豊策(巡查部長) 同日濟南ヨリ歸朝
 佐藤一郎(同) 同日黑原子ヨリ歸朝
 須賀(領事) 同十六日東京出發二十五日晚香坡ニ著任
 山口治平(督部補) 同日二道溝出發二十三日歸朝
 武藤義雄(三等書記官) 同十八日東京出發英國ヘ赴任
 玉木勝次郎(總領事) 同十九日孟買ヨリ歸朝
 矢田部保吉(同) 同日青島出發二十六日歸朝
 宮城平兵衛(書記生) 同日張店ヨリ歸朝
 阿南正生(同) 同日瑞西國ニ著任
 松本儀郎(同) 同日重慶ニ著任
 佐分利貞男(參事官) 同二十日倫敦出發歸朝ノ途ニ就々
 高井末彦(副領事) 同日廣東ニ著任
 牧野五良(巡査) 同日東京出發局子街ヘ歸任
 蒲部清治(書記生) 同二十一日「ダヌースアイレス」出發
 歸朝ノ途ニ就々
 傷田四郎(同) 同日東京出發俄古ヘ赴任
 重光葵(一等書記官) 同日北京出發二十七日歸朝
 林茂(書記生) 同二十二日東京出發三十日「ホノルル」ニ著任
 松尾源一(督部) 同日鄭家屯出發二十八日歸朝
 吉田茂三郎(巡査) 同二十三日黑原子ヨリ歸朝
 謙訪務(二等書記官) 同二十四日和蘭園ヨリ歸朝

在外公館員ノ臨時本省勤務

諫訪務 北豐島郡西巢鴨町堤内一二五
 吉田茂 豊多摩郡巣谷町神山四七
 深野莊太郎 豊多摩郡千束町三ノ四二
 多田茂 豊多摩郡巣谷町上通二ノ五、伊勢方
 井上 豊多摩郡巣谷町宮仲一五四三
 下村未郎 豊多摩郡杉並町高圓寺八八七
 石井省三 同郡中野町打越二、一二二

現職員住所及留守宅異動

諫訪務 北豐島郡西巢鴨町堤内一二五
 吉田茂 豊多摩郡巣谷町神山四七
 深野莊太郎 豊多摩郡千束町三ノ四二
 多田茂 豊多摩郡巣谷町上通二ノ五、伊勢方
 井上 豊多摩郡巣谷町宮仲一五四三
 下村未郎 豊多摩郡杉並町高圓寺八八七
 石井省三 同郡中野町打越二、一二二

國事出入

大日本帝國政府
 日本外務省
 1938年1月1日
 著者二名
 1 114 1225(共2)
 2 411 1229

大日本帝國政府
 日本外務省
 1938年1月1日
 著者二名
 1 114 1225(共2)
 2 411 1229

現職員住所及留守宅異動

高杉登 越前國元園町一ノ五〇、齊藤方
 重光葵 芦原郡大森町望翠樓モテル
 堀内謙介 神戸市下山手通八ノ一六〇
 矢田部保吉 豊多摩郡巣谷町神泉
 原田慶蔵 同郡同町金王八、松友館
 小澤重則 同郡同町神泉一九、岩下方
 後藤安嗣 同郡同町神泉一ノ三六
 福島茂吉 豊多摩郡巣谷町常盤松四八、坂本方
 果由茂 豊多摩郡巣谷町常盤松四八、坂本方
 叢部源吾 芦原郡大字谷町原宿二〇九、内藤方
 若月龍次郎 芦原郡大字谷町原宿二〇九、内藤方
 田村茂友 同郡井荻町上荻洼八九四
 宮城平兵衛 日本橋區吳服町三〇、龍名館
 玉木勝次郎 本都區赤門前、大津館
 小瀧彬 豊多摩郡中野町東中野八六二、出雲育英塾
 武内龍次 赤坂區青山町六ノ四三
 青山延正 豊多摩郡都杉並町高圓寺五五六
 後藤尚弘 金澤市下百々女木町一九ノ二、後藤山行(同)
 かすみ合員吉田要作氏ハ昨年十二月十六日、同森格氏嚴父ハ同二十四日、同酒匂新平氏及同眞原正直氏母堂ハ同二十六日孰レモ死去セラレタルニ付杉木幹事ハ各告別式ヲ營列シテ弔辭ヲ靈前ニ供シタリ

かすみ合員ノ訃

かすみ合員吉田要作氏ハ昨年十二月十六日、同森格氏嚴父ハ同二十四日、同酒匂新平氏及同眞原正直氏母堂ハ同二十六日孰レモ死去セラレタルニ付杉木幹事ハ各告別式ヲ營列シテ弔辭ヲ靈前ニ供シタリ

外務省報 第百四十六號 (昭和三年一月一日)

二十一

外務省報 第百八十八號 (昭和四年十月一日)

十八

小出 潤(同) 同日東京出發青島へ赴任
小針 代吉(同) 同日東京出發漢口へ赴任
西村 和一(同) 同上
森川 肇治(同) 同上
依坂庄五郎(同) 同上
樋口高一郎(同) 同上
渡邊徳次郎(同) 同日東京出發青島へ赴任
伊集院登寛(同) 同上
南 豊吉(同) 同上
吉村 一雄(同) 同上
萬谷積太郎(同) 同日東京出發博山へ赴任
廣瀬榮次郎(同) 同日東京出發張店へ赴任
竹村 健(同) 同日東京出發濟南へ赴任
山田 軍七(同) 同上
舟橋 虎雄(同) 同上
片岡 肇海(同) 同上
野宮時治郎(同) 同上
枝本 賢吉(同) 同上
齊藤 正直(同) 同日東京出發漢口へ赴任
藤武 淳(同) 同上
依田 國衡(同) 同日東京出發開島へ赴任
荒木 長次(同) 同上
加藤 正木(同) 同上
岡野 庄直(同) 同日東京出發漢口へ赴任

在外公館ノ臨時本省勤務
領事官補 矢野 征記(經育) 僧侶部第二課
高等試験外交科本試験合格者
外交科本試験合格者氏名(イニシアルノ如シ)
岩田 冷央
仁宮 武夫
佐野 伸三
福島 勝太郎
古内 廣治
佐野 賢方
佐野 新一
佐野 雄
宮崎 重
島津 久
大信 章

雜報

昭和四年九月下半月中央入選書下ノ如シ

「リスボン」出張員事務所へ今般左記へ移轉ナレタル旨在
西班牙國荘井販時代理公使ヨリ八月五日附ヲ以テ報告アリ
タリ

Consulat de la Legion du Japon,
Avenida da Liberdade 202,
Lisbonne, Portugal.

職員現住所及留守宅異動

甘利 造次 芦原郡大森町 純葉樓「ホタル」
塙田 作次 舞奈川郡猪倉町極樂寺五七
田中 義造 鹿町區元園町一ノ三四
小川 徳助 芝區神谷町一八・四四號ノ二
白井 康 豊多摩郡中野町西町三、四八六、後野方
安木偉久太 牛込區山吹町二ノ七七、九山方
守屋 和郎 赤町區三番町八四
加納登美子 花原郡駒澤町上馬九四三
猿波 孝 暨多摩郡野方町打越一八七九、田中方
(留宿宅) 加藤傳次郎 芦原郡佳原町中延一〇七
油部 清治 埼玉縣北足立郡浦和町一、九七三、浦部彌三郎

圖書受入

昭和四年九月中央入選書下ノ如シ

書

外務省報 第百七十二號	(昭和四年二月一日)
書類 二郎(巡査) 同日東京出發頭道溝へ歸任	
在外公館員ノ臨時本省勤務	外務省報
外務書記生 並 正直(哈 康) 電信課	職員現住所及留守宅異動
須藤喜右衛門 佐原郡馬込町堂寺四二七 重光 奏 大森町望界橋「ホナム」 土屋 協愛 府下王子町上十條一四二二 清水芳太郎 赤坂區青山南附五ノ七二 渡邊 真治 豊多摩郡淀橋町柏木三二六菊地方 長岡 半六 豊多摩郡中野町三三〇〇 猪田 作次 芝原白金猿町六八 齊藤 博 豊多摩郡御茶谷町羽澤七七(電番五、一六六) 山下 正次 牛込區新小川町一ノ一四 大竹 三郎 赤坂區青山北町四ノ九六佐藤方 西深 義教 本郷區駒込西片町十ノ二二號 高津 富雄 神奈川縣北鎌倉開覺寺前 今井 忠道 大森町望界橋「ホナム」 大前 武雄 横濱市鶴見區鶴見町是岡一ノ六六三 早間 恒雄 麻布區市兵衛町二ノ八四番田方 大野 邦志 豊多摩郡下戸塚三〇五 藤田 通成 荘原郡日出町中自黒一、四二九 鶴部 軍藏 神田區駒河臺鈴木町二六	宿
日本書院大蔵司 支那經濟地圖誌 美品上、下。 812 13771	日本美術年鑑 一九二九年 1052 13760(346)
神田正林洋 証の写真 832 13773	古事記大支那地誌 823 13760(346)
細川柳亭 精義を斯らしく見よ 同 山川の断片と我聞 413 13773	大日本帝國政治誌 第九卷 114 13802(346)
朝日新聞社説 朝日常識講座 第一回 人口問題 111 13782 第二回 地界の大争 111 13786 第三回 文部の現状 13814 第四回 政令の現状 13814 第五回 外國の政情 13803	電気工学着述集 833 13803
山口弘一著 日本圖書社註 T.O.C.(5-分冊) 322 13768	古今圖書集成 井田哲學全編 最近同島事件 832 13814 同 異常事象人種誌 13814

外務省報 第百七十二號	(昭和四年二月一日)
書類 二郎(巡査) 同日東京出發頭道溝へ歸任	十一
在外公館員ノ臨時本省勤務	横竹平太郎 赤坂區鈴町六太田道一(留守宅)
外務書記生 並 正直(哈 康) 電信課	南條 勉 廣島市田中町六五南桂石(別)
職員現住所及留守宅異動	かすみ會計音
須藤喜右衛門 佐原郡馬込町堂寺四二七 重光 奏 大森町望界橋「ホナム」 土屋 協愛 府下王子町上十條一四二二 清水芳太郎 赤坂區青山南附五ノ七二 渡邊 真治 豊多摩郡淀橋町柏木三二六菊地方 長岡 半六 豊多摩郡中野町三三〇〇 猪田 作次 芝原白金猿町六八 齊藤 博 豊多摩郡御茶谷町羽澤七七(電番五、一六六) 山下 正次 牛込區新小川町一ノ一四 大竹 三郎 赤坂區青山北町四ノ九六佐藤方 西深 義教 本郷區駒込西片町十ノ二二號 高津 富雄 神奈川縣北鎌倉開覺寺前 今井 忠道 大森町望界橋「ホナム」 大前 武雄 横濱市鶴見區鶴見町是岡一ノ六六三 早間 恒雄 麻布區市兵衛町二ノ八四番田方 大野 邦志 豊多摩郡下戸塚三〇五 藤田 通成 荘原郡日出町中自黒一、四二九 鶴部 軍藏 神田區駒河臺鈴木町二六	和 諸 大日本史 823 13714 十九世紀 世界美術名作 第二十回 米羅、哥特美術。 141 13750(346)
日本書院大蔵司 支那經濟地圖誌 美品上、下。 812 13771	大日本史 823 13714 十九世紀 世界美術名作 第二十回 米羅、哥特美術。 141 13750(346)
神田正林洋 証の写真 832 13773	古今圖書集成 井田哲學全編 最近同島事件 832 13814 同 異常事象人種誌 13814
細川柳亭 精義を斯らしく見よ 同 山川の断片と我聞 413 13773	電気工学着述集 833 13803
朝日新聞社説 朝日常識講座 第一回 人口問題 111 13782 第二回 地界の大争 111 13786 第三回 文部の現状 13814 第四回 政令の現状 13814 第五回 外國の政情 13803	古今圖書集成 井田哲學全編 最近同島事件 832 13814 同 異常事象人種誌 13814

外務省報 第二百四十三號 (昭和七年一月十五日)

二十一

鉢川 政一(調査) 同日拘鹿ヨリ歸朝

茨城特命全權公使 同十二日上海出發同十五日歸

計金二百七十圓也

重光 正美(書記官) 同上

佐原 幸夫(同) 同十三日滿洲里出發「アラゴウエースチ・ンスター」(赴任)

重光 正美(書記官) 芽原郡大森町望翠樓「ホタル」

加藤 龍一(外務局) 同日東京出發吉林へ赴任

佐原 幸夫(同) 北豊島郡王子町下十條一五五〇

清水 可一(巡査部長) 同日東京出發吉林へ赴任

北多摩郡玉川村前田七八二

芳澤 謙吉(特命全權大使) 同十四日佛國ノ歸朝

北多摩郡玉川村前田七八二

佐藤 尚武(同) 同日白蘭ニ歸任

北多摩郡玉川村前田七八二

松浦 弘人(巡査部長) 同十五日東京出發天津へ赴任

北多摩郡玉川村前田七八二

雜 報

圖 書 受 入

在外公館員ノ臨時本省勤務

外務書記生 河面 繁松(西貢) 通商局第一課

同 久田 信精(厦门) 亞細亞局第一課

霞ヶ関實務學校十二分計算書

收 入

前月分越高

當月分寄付金

一金百三十四圓四十錢也

一金百二十一圓九十二錢也

支拂

一金百六十五圓也

一金百五圓也

講師年末賞與

當月分講師手當

日本思想会社研究會
日本文獻日報 第二期 (六十五年五月)
(中華人民共和国文獻研究會編) O 00 122

資深眞園集、木山尚長集

用 (中華人民共和国文獻研究會編) A 12 301

職員現住所及留守宅異動

久我 成美

豐多摩郡中野町昭和二ノ三三、久我舎子(留守)

北豊島郡西東郷町油袋五四九

田村 浩 同 西尾頓明宮仲二五二三

田中莊太郎 北多摩郡玉川村前田七八二

田淵 源一 四谷區番町一七八、現代支店

久我成美

豊多摩郡中野町昭和二ノ三三、久我舎子(留

守)

通販易法書			
馬 咲 番 聞 史 (通販易法書)	A 50 124	支那近代の政治經濟 (通販易法書)	A 43 124
不 田 有 作 著		國 村 肇 大 著	
陸 军 資 本	A 13 140	世界古代文化史 大津草堂	O 20 144(24)
石井源太郎著		國際法秩序論 大津草堂	O 40 117(24)
國 防 文 報 (Navy)	A 13 129	通 貨 游 讀 著	119
外 市 こ お や		滿 豐 制 造 及 水 溶 製 造 日本製造 諸業問題をどう見る	A 50 122
滿 豐 製 造 の 前 袖 —Navy Report to日本—	A 50 119 —21	日本製造 諸業問題をどう見る	A 50 125
外 市 著			
支那古代社會史論 (支那古代社會史論研究會)	A 48 9(文化)	世界現狀大觀 第十二卷 中華民國編	O 20 145
日本勞働年報 勞働年報 (大日本勞働研究會)	A 18 50(文化)		

外務省報 第二百四十三號 (昭和七年一月十五日)

二十一

道楽行進

行楽道楽ガイド

旧日立航空機立川工場変電所
(東京都東大和市)

多くの弾痕が残る旧日立航空機立川工場変電所。戦前から使われていた配電盤に残る銃弾の痕。戦後もこの状態で使われていた

戦争を考える
親子でぶらり!

電所正面の壁面には無数の弾痕が残り、分厚いコンクリートを貫通しているものも。内部に入ると、戦前から使われていた2階の配電盤や、階段の手すりにも銃撃の痕が見られた。昭和恐慌で疲弊し、経済更生指定村とされた旧大和村(現東大和市)に、東京瓦斯電氣工業の工場が移転してきたのは昭和13(1938)年。翌年、日立航空機と社名が変わった。戦闘機のエンジンなどを製作した工場は、戦時中、米軍の標的となり、3度の空襲を受けた。

最初が(昭和20年)2月17日

今昔 貫く弾の痕を見よ

この空襲より被害が大きかった。こうした空襲にも奇跡的に壊滅を免れた変電所は、戦後も平成5年まで爆撃の痕跡を残してまま使われた。都立公園整備のために都が土地を買い上げたが、「地域住民や元従業員らの要望で、変電所はそのままの状態で保存されています」と後藤さん。

「8月11日~23日(17日除く)は原則14~17時に内部を公開。博物館の企画展『私たちのまちは戦場だった』(7月11日~9月6日)と合わせてご覧になり、平和の尊さを感じていただけれ

ば」と話している。(仁)



★東京都薬用植物園 東京都小平市中島町21の1、西武拝島線東大和市駅徒歩2分。薬用植物や有害植物、ハーブなどを栽培育成、試験検査などを行っている。火曜日を除きボランティアガイド(花咲案内人)が見ごろの花などを案

内してくれる。入園無料。原則月曜休園。042・341・0344

★都立東大和公園 東京都東大和市湖畔3丁目など。西武多摩湖線武蔵大和駅徒歩15分。「雑木林博物館」がキャッチフレーズ。「悠久の森」「源流の森」「こも

れびの谷」などと名付けられたアカマツ、コナラなどがこんもりと茂る雑木林の中をゆっくり散策できる。木製遊具が置かれた森のあそび場もあり、家族連れにもオススメ。狭山公園パークセンター(管理所)は042・393・0154。

ひとこと 「本文以外の期間でも、団体での見学は可能な場合があります。希望があれば、博物館にお問い合わせください」と後藤さん。